

清瀬第五中学校 3 年生の諸君へ

教育長の坂田です。講評でも話をさせていただいたが、諸君の「魂の合唱」を聞くことができ本当にうれしかった。

音楽は「音」の集合体だ。様々な高さの音を連続させればメロディーが出来上がる。音と音とを重なり合わせればハーモニーが生まれる。長さの違う「音」を組み合わすことでリズムになる（合唱にはこれに「言葉」という音加わる）。諸君が演奏した「大地讃頌」も「証」も「信じる」も「虹」も、これらの「音」の組み合わせでできている。

如何に素晴らしい音楽でも楽譜に書かれた段階では、それは単なる「音の集合体」にしか過ぎない。それを「音楽」にするにはどうすればよいのだろうか。「単なる音の集合体」と「音楽」とは何が違うのだろうか。

その答えは「心」だ。大変「ベタ」な表現で申し訳ないが「心」としか言いようがない。目の前にあるメロディーが、ハーモニーが、リズムが、そして言葉（歌詞）が何を言いたいのか、我々に何を語りかけてくるのか、何を感じてほしいのか、どのようなメッセージが込められているのか、これらを「心」で感じ、「心」で受け止め、そこに自らの「心」の中にある想いと願いを込めて、聴く人の「心」に届くよう表現する…。この瞬間に「単なる音の集合体」は、その人にしか表現できない唯一無二の「音楽」になる。

「心」は様々な「体験」によってどんどん成長する。友達と意地の張り合いで喧嘩したこと、互いに素直になって仲直りをしたこと、落ち込んでいるときに励ましてくれたこと、目標を達成し共に喜んだこと、悔しい体験、悲しい体験、感動したこと、挫折したこと、必死になったこと、投げやりになったこと、「もう少しこうしていたら…」と後悔したこと、逆に自らの努力に満足したこと…。3年間のたくさんの体験が諸君の「心」を育てたのだ。

そしてその「心」が「音」に込められ、C組にしか演奏できない「証」となり、B組以外誰もまねができない「信じる」となり、世界のどこにもないA組だけの「虹」となって表現されたのだ。

このような体験の機会を与えてくれたのは他にもない、3年間を共に過ごした友であり先生たちであり、そして保護者であり地域の人たちであり…。すなわち諸君を取り巻くあらゆる人たちの存在が、諸君の「体験」を支えてくれていたのだ。このことは決して忘れてはならない。

(中略)

これだけ真剣に音楽と、合唱と向き合える学校は数少ない。そしてこれだけ熱い思いを持って、この行事に取り組める生徒は決して多くはない。そんな五中で学べたことを、またそんな学びを与えてくれた先生方を、そして切磋琢磨しつつ共に学ぶことができた友を誇りとし、残りの5か月を、そして卒業後の長き人生を歩んでほしいと心から願う。

各学級の演奏について一言ずつコメントを記したいと思う。卒業式は最後の音楽授業。この最後の授業を最高のものにするために参考にしてもらえれば、音楽を愛し、そのすばらしさを中学生に伝え続けてきた私にとって、これ以上の喜びはない。

0-1 場内アナウンスの男子生徒

○素晴らしきアナウンス。声もよいし発話のタイミングも Good! 休憩時間から感心してしまった。

0-2 全員合唱

○指揮者、引き締まった表情で全員をまとめ上げようという気迫が伝わってくる。指揮もダイナミックで堂々としている。かっこよかった。

○よく声が出ている。3年生としての誇りや歌うことへの自信、友と共に表現する喜びがあふれる学年合唱だった。技術的なレベルも高く混声四部の響きも美しい。学年合唱としてハイレベル。秀演だった。

3-C

○歌おうという「意志」が3-Cの音楽にエネルギーを与えている。加えて強弱の変化が非常に効果的。特に「大地讃頌」では、「恩寵の豊かな(我ら人の子

の)」から「たたえよ土を」に至るまで、そして「母なる大地を」から最後のフェルマータに至るまでのクレッシェンドが圧巻。感動的な音楽に仕上げてくれた。

○自由曲は曲がもつメッセージを丁寧に表現している様子が印象的。冒頭の女声の響きが大変きれいで、あっという間に3-Cの世界に会場を引き込んだ。合唱は演奏者の心を表すといわれている。きっと感性豊かな学級なのだろう。「心」を感じる合唱だった。

○一つ課題を挙げるとすれば、フレーズ（メロディーのまとまり）の最後の音の処理について。ブレスをとることで音楽の流れが途切れて聞こえてしまっている。「大地讃頌」の「平和な大地を 静かな大地を」の部分で説明するとすれば、「大地を」の後にブレスをとる際に、次の「静かな」の「し」の音を感じながら短時間でたっぴりと、また肩の力を抜いて息を吸う。これだけでフレーズのつながりは表現できるはず。ぜひ研究してみてください。

3-B

○混声四部合唱の響きが大変美しい。特に合唱の世界では、仲間への「信頼」とか「尊重」とか「思いやり」とかいう、自分以外の他者を思う「心」がなければ、感動的な「響き」は生まれてこない。きっと互いに支えあえる「優しい学級」なのだろう。

○この学級の演奏で感心したのはp（ピアノ＝弱く）の表現がきれいなこと。pを表現するときは、往々にして息のスピードが遅くなり、音程が下がり、響きが濁ることが多いが、この学級はそれが見られない。感心した。

○自由曲のピアニスト、豊かな感性を感じる。ブラボー！ 合唱団は歌詞の意味をしっかりと解釈をし、それに合う音楽表現を工夫している点は素晴らしい。色彩豊かな、そして感動的で、しかし中学生らしく素直な3-Bだけの「信じる」を聞かせてもらった。

○この学級であれば、「音色」の変化に挑戦できるかも。「大地讃頌」は力強く、明確な輪郭を持つ音色で、「信じる」は優しく淡いイメージの音色で。この高度な要求もやっつてのけられるかもしれない。期待が大きいと要求も高くなるのだ。

3-A

○学級紹介の男子生徒。私だけでなく、多くの聴衆はあなたのあふれんばかりの思いや願いを受け止めてくれたはず。「言葉に魂」が宿っていた。素晴らしい紹介メッセージだった。

○この学級の最大の特色は「表現の工夫」。その象徴が、大地讃頌の「平和な 大地を」「静かな 大地を」と、同じメロディーで異なる歌詞をうたう部分。3-Aは一度目を「p」で、二度目を「pp」で表現した。これは楽譜には書かれていない独自の解釈。

○恐らく同じメロディーが2度繰り返されているから、強弱の変化をつけようという工夫、加えて「静かな」の歌詞に合うような表現をしようという工夫が、学級で話し合われたのだろう。これぞ「真なる協力・協働」である。まさに3-Aにしか再現できない大地讃頌だった。

○自由曲。クラス全員がこの曲が大好きなことが伝わる演奏。一人一人が歌詞に共感し、「風景」を思い浮かべながら歌い上げている。だから3-Aの「虹」にはドラマがある。ソロも立派。心が洗われるような合唱を聞かせてもらった。

○卒業式までに「発音」について研究してみてもどうだろう。例えば大地讃頌の歌いだし「母なる大地の」が「ああなるたいしの」と聞こえてしまっている。

「HaHa」の「H」や、「Daichi」の「D」や「C」をしっかりと発音するだけで伝わり方が確実に違ってくる。参考まで。

素晴らしい音楽を、合唱を届けてくれた第五中学校3年生に心から感謝したい。諸君は清瀬の誇りだ。ぜひ胸を張って残り5か月の中学校生活を、また卒業後の長い人生を歩んでほしい。心から期待している。

令和5年10月13日

清瀬市教育長 坂田 篤